

Wikitopia Project全体像（2018年2月13日）

FY2017は、本格的な技術開発に取り組むための事前準備、基本的な体制づくり、簡単なアウトリーチ活動などに努めた。

1) 事例調査

概要：DIY的な街づくりや都市運営へのIT活用、オンライン・コラボレーションなどに関する先行例の広範な調査を行い、4月以降の技術開発や実証実験の内容決定に役立てる

時期：2018年3月中旬に終了

A) 街づくり先行事例調査（国内）

渡邊さんに依頼、国内事例に重点を置く

B) 街づくり先行事例調査（海外）

Urbanに依頼、海外事例に重点を置く

C) 技術事例調査

竹内が実施、OSS研究やe-democracy、街づくりへのIT活用などに関する事例をまとめる

D) 先端技術スケッチ

大和田さんに依頼、先端技術活用の可能性を探索する

今後の展開：

- ・事例調査自体は2018年3月で終了、資料を共有し今後の方向性を決定する上での材料にする

2) アウトリーチ・パブリシティ

概要：プロジェクトの周知、および国際的な協力者のネットワーク構築を目指す

時期：通期

A) 海外展開（US・イタリア・中国）準備

Allen（ハーバード）に依頼、Sidewalk Labsともコネクションを作りたい

B) 国際コンペ準備

専門家（山田さん、倉方さん、山本さん）を交えて相談中、MITのCarloにも協力打診

C) 情報発信

Web、出版物、映像などを通じた情報発信を行う（最近Webで記事が出た、飯尾さんに感謝）

今後の展開：

- ・コンペについては、国際会議ISS 2018（11/25-28）と併催する形でイベント開催、そこから逆算して準備を実施
- ・映像発信のやり方を考える（Atlas執筆陣にインタビューなど）、出版物も
- ・国際展開の一環として、海外でのワークショップの開催も考える（Allen任せ）

FY2018は、引き続きプロジェクトの周知やコミュニティの拡大に努めるとともに、技術開発（主にソフトウェア）を開始し、また簡単な実証実験も実施する

3) 技術開発

概要：Wikitopiaの実証実験に必要なソフトウェア面（DIY的街づくりを支援するオンラインシステムなど）・ハードウェア面（都市環境に実装されるIoTデバイスなど）の技術開発を行う

時期：2018年4月以降

A) ソフトウェア開発

竹内+大和田さんを中心に実施、適宜エンジニアの追加雇用や外部企業との連携を実施

B) ハードウェア（空間改変技術）開発

竹内を中心に実施、ソニーGr内で必要な人材を確保（長嶺さんなど）

今後の展開：

- ・ハードウェア開発は、探索研究機関（～2019年3月）までは主眼ではないので、細々と実施
- ・ソフトウェア開発は、3月中旬以降に早急に基本的な仕様を策定し（ソフトウェアは実証実験にも利用するので、その内容と同時に詰めていく）、必要なリソースを集めて開発を開始する

4) 実証実験

概要：WikitopiaのProof-of-Conceptとなる、小スケールの実証実験を実施する

時期：2018年度内

A) 国内実験

現時点では場所も内容も未定

B) 海外実験

AllenやCarloの人脈を使えばUS・イタリア・中国などで展開可能だが、資金が別途必要

今後の展開：

- ・3月中旬以降、国内実験のアイデアを詰めていく
- 下記のようにいろいろなやり方が考えられるが、基本的な方向性は早めに確定することが望ましい
- Parklet + ITのような、タクティカル・アーバニズムに準拠した実験を実施
 - 公共空間をディスプレイで埋め尽くすような、tech系（チームラボ的？）実験を実施
 - 上記のいずれとも異なる実験を実施

その他：

- ・未来社会創造事業は実用化・事業化を念頭に置いた事業なので、それを考慮して活動内容を決定したい
- ・Wikitopiaは海外受けがいい感じ、これをうまく活かしたい